

触媒を通じた創業60年の軌跡

モノづくりを支える触媒メーカーを目指し創業、プロセス触媒等の製造を開始

石油化学工業製品の国産化に伴い、触媒の製造・開発の国産化が求められていたなか、1964年に住友金属鉱山と米国エンゲルハルド社の折半出資で設立されました。プロセス触媒、貴金属めっき薬品、金液などの製造販売等を開始し、日本の高度成長期における化学産業の発展に寄与してきました。



初代経営陣



1964

Close up 1

社会の動き

- 1964年 東海道新幹線開通／東京オリンピック
- 1967年 公害対策基本法制定
- 1970年 米国マスキー法制定
- 1978年 日本版マスキー法制定

- 1988年 IPCC設立
- 1991年 バブル崩壊
- 1994年 気候変動枠組条約

1964年～

当社のあゆみ

触媒メーカーとして、高度成長期の日本の化学産業の発展に貢献

- 1964年 会社設立／市川研究所完成／プロセス触媒・貴金属めっき薬品・金液などの製造販売および貴金属回収精製事業開始
- 1970年 沼津工場(現沼津事業所)竣工

1964

Close up 2

循環型社会に向けた貴金属の再資源化に取り組む

創業時より希少な貴金属を再資源化する貴金属の回収精製事業を開始しました。使用済み触媒を回収し、付着した不純物を取り除いたうえで高純度に精製する自社プロセスを確立。循環型社会を目指し、今後ますます重要となるリサイクル技術の向上に、いち早く取り組んできました。



1979年～

モータリゼーションの発展に伴い排出ガス浄化触媒事業を拡大

- 1979年 自動車触媒製造開始
- 1989年 エヌ・イー ケムキャットへ社名変更

Close up 3

1979

規制の強化に伴い自動車排出ガス浄化触媒を拡大、環境保全に貢献

1979年より乗用車向け排出ガス浄化触媒の製造を開始。モビリティ社会の発展とともに、排出ガス規制が年々強化されたことにより、排出ガス浄化触媒の需要が高まり、事業は成長していきました。その後もディーゼル自動車向け、二輪車向け、建機向けの触媒を提供し、環境保全に貢献してきました。

自動車排出ガス触媒初出荷の様子



1997年～

排出ガス規制に対応して、触媒の対応領域を拡大

- 1997年 Engelhard Chemcat (Thailand)設立
- 2002年 つくば事業所竣工
- 2003年 ディーゼル自動車触媒量産製造開始
- 2012年 米国R&D100アワード受賞

1997

Close up 4

燃料電池触媒開発に着手、次世代エネルギーの普及を支える

地球温暖化による環境問題の深刻化に関心が高まるなか、クリーンエネルギーとしての水素に着目し、1997年に燃料電池車の電極触媒開発を開始しました。さらなる貴金属低減と触媒性能の向上を目指して、コアシェル触媒等を開発し、2012年には米国R&D100アワードを受賞しました。



米国R&D100アワード受賞

- 2000年 国内排出ガス規制大幅強化
- 2008年 リーマンショック
- 2015年 パリ協定／SDGs(持続可能な開発目標)策定
- 2017年 水素基本戦略策定

- 2020年 カーボンニュートラル宣言(日本)
- 2023年 水素基本戦略改定

2021年～

持続可能な社会の実現に向けサステナビリティ経営を推進

- 2021年 経営理念・ビジョン2030策定
- 2024年 創業60周年

Close up 5

2021

経営理念・ビジョン2030を策定、サステナビリティ経営を本格化

2021年に経営理念とビジョン2030を策定。環境保全およびSDGs関連事業の構成比80%以上を目指し、社会課題解決を通じて事業成長とともに社会から信頼される企業となるべくサステナビリティ経営に取り組んでいます。ビジョンの達成に向け、新たな技術開発を推進し、体制および機能強化を図っています。



2021年5月に移転した新本社オフィス

For the Future

持続可能な未来へ

60th Anniversary